

令和5年3月17日

## 令和4年度第42回卒業証書授与式における祝辞

パース日本人学校卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

素晴らしいパースの自然とオーストラリアの優しい人々、そして懇切丁寧な日本人学校の先生方のご指導のもとで学んでこれたことを総括する人生の大切な節目となりますね。心よりお祝いを申し上げます。

私自身も日本人学校の卒業生です。パースではなくタイのバンコック日本人学校でしたが、約50年前に小学校を卒業した日のことを今も鮮明に覚えています。結婚した家内も南アフリカのヨハネスブルグ日本人学校の先生で、3人の子供も日本人学校で学びました。

帰国子女ということばでひと括りにできないほど、ひとりひとりの事情は異なります。ですがひとつ言えることは、長い人生の中で、日本人学校で学んだ日々は特別なものとなるということです。そしてそれは多くの場合、後になってから気がつきます。

人生の中で、家族とこんなに親密に支えあって楽しく過ごす時期はないでしょう。

先生方にこれだけ懇切丁寧にきめの細かい指導いただくこともないと思います。

さらに交流の中で、まるで自分が日本を代表しているかのような気持ちになることもあり、日本や日本社会について外国から見て、気づくことも多いと思います。

こうしたことが楽しい情景となって、日本のめまぐるしい現実や矛盾に直面するときなど、何度も頭を駆けめぐりました。進路や就職先を決める際に、海外の日本人学校で学んだこと、帰国して思ったことが様々なこだわりや自分の信念になっていることに気がつきます。

私自身の発見は、異なる国の人々とも話をして努力をして心が通じないことはない、心を通わす努力は間違いなく必要で、通りすがりの他人でも親しく挨拶をし、困っている外国人がいたら声をかけること、それを社会全体で良いことだと思ふ文化の推進は、日本にいる周りの大人はわからないかもしれないけど、若い自分は体感して知っている、こうしたこだわりが信念になり、気がついたら私は外務省で仕事をする事になりました。

皆さんも、日本において日本の学校にいたのでは得られない経験をされたはずですよ。

全校生徒で協力して完成させた学習発表会でのピーターパーンには大変感銘を受けました。

総督邸での「ワールド・オブ・フード・フェスティバル」における南中ソーランは、参加者の中で最も素晴らしいパフォーマンスで、大きな拍手をもらいました。私は感動を隠すことができず、集合写真では総領事が最も嬉しそうだと指摘をされたほどでした。

日々のシティ・プライマリーの子供たちとの交流、その他、楽しい思い出、そして得難い発見もあったと思います。

ご卒業後、日本人学校の中学部に進学する方、帰国して進学する方、あるいはオーストラリアの学校に転出する方もおられるかもしれませんが、パース日本人学校での学びを大切にして、さらに大きく飛躍をされることを願っております。

保護者の皆様、日本人学校教諭の皆様、運営委員会および日本人学校を支える関係の皆様、学校の活動を支える日々のご努力に心より感謝申し上げます。パース日本人学校が、地域の様々な方々から支えられていることを大変ありがたく受け止めており、私もマッガーワン西豪州首相、エラーリー教育大臣等に会う機会に学校への支援につき御礼を申し上げていることを申し添えます。

ご卒業、おめでとうございます。

在パース日本国総領事内藤康司